

(3)持続可能な農林水産業

概要	農林水産業で生み出される商品やサービスの付加価値を高め、担い手を確保し、食の自給率を高める。また、農林水産業による環境・社会負荷を軽減し、持続可能な農林水産業を確立する
----	--

対馬の産業、食を中心とした暮らしの文化は、豊かな森・里・海のめぐみ(生態系サービス)によって成り立っています。対馬の雇用・所得、文化を守りつづけるには、まず、森・里・海の資源に負荷をかけない配慮や工夫が必要となります。

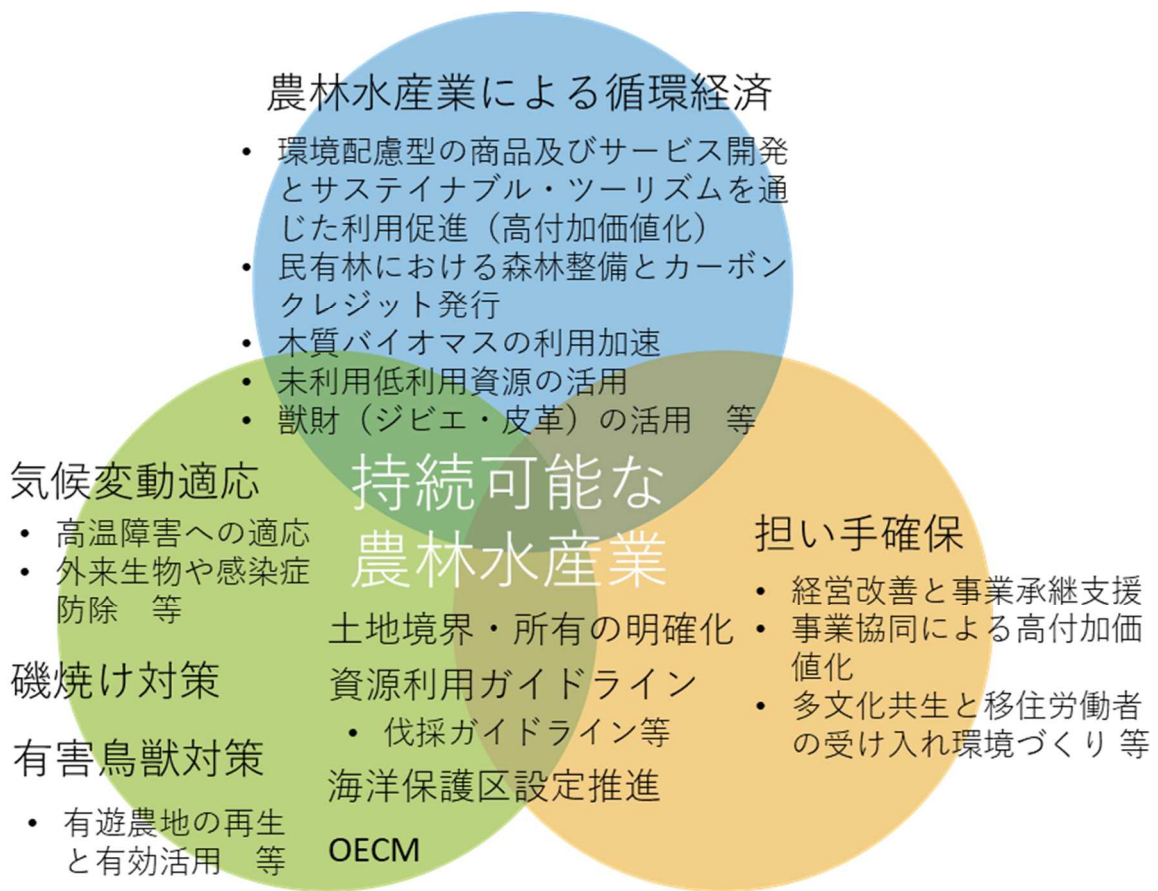


図 21 持続可能な農林水産業による食と循環経済・担い手の確保

<森・里>

特に、対馬の陸域の9割を占める森林は、経済にとっても環境にとっても重要な役割を果たしています。林業経営において、「ウッドショック」をきっかけに国産木材への注目が高まっています。森林管理と木材の活用、植林の持続可能なサイクルが構築できれば、林業の活性化やカーボンニュートラルへの貢献が可能となりますが、一方

では、森林伐採の大規模化等環境への影響が懸念されています。対馬市が既に策定している「伐採ガイドライン」や「森林づくり基本計画」を見直す中で、持続可能な林業のあり方について議論し、実際の森林施業に配慮の視点や手法が採り入れられることが期待されます。

また、持続可能な森林管理に関し、人口減少と超高齢化に伴い、森林所有者の不在化や不明化、土地境界の不明化が進行し、森林経営や生物多様性保全に支障が出ています。そのため、所有者や土地境界の明確化、森林経営の集積・集約化は持続可能な森林管理の基本的な課題となります。図 22 のとおり、対馬では伐期を迎えた人工林を多く有しています。生態系に配慮し、「伐る、使う、植える、育てる」という森林資源の循環利用を進めることで、持続可能な林業経営、そして、カーボンニュートラルへの貢献につなげます。

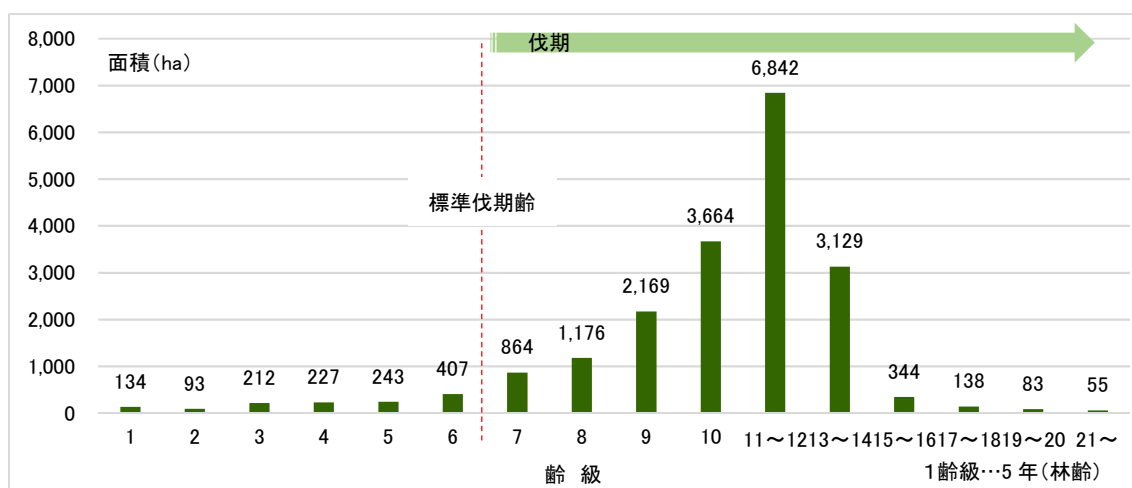


図 22 人工林(スギ・ヒノキ)の年齢別面積

データ: 令和 2 年度長崎県の森林・林業統計

持続可能な農林水産業を確立するには、その担い手確保も重要な課題です。農林業の生産活動によって維持されてきた里地・里山は、ツシマヤマネコやツシマウラボシジミをはじめとする対馬の希少種の重要な生息環境となり、生物多様性が保たれてきました。そうした環境は、国際的に、法令等による自然保護地域以外で民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域(以下、OECM)として注目が高まっています。



写真4 原木しいたけのほだ場。防護柵で囲まれたほだ場には、ツシマウラボシジミの食草等が残り、生物多様性が保たれている

す。しかしながら、高齢化と製品の価格低迷により、近年廃業が進み(図 23)、そうした環境が一気に荒れ始めるおそれがあります。人口減少と超高齢化が進む中、食と環境の維持のためにも、OECD での産品・サービスの高付加価値化、そして子どもたちへの教育支援や UI ターン者への事業承継支援を行います。

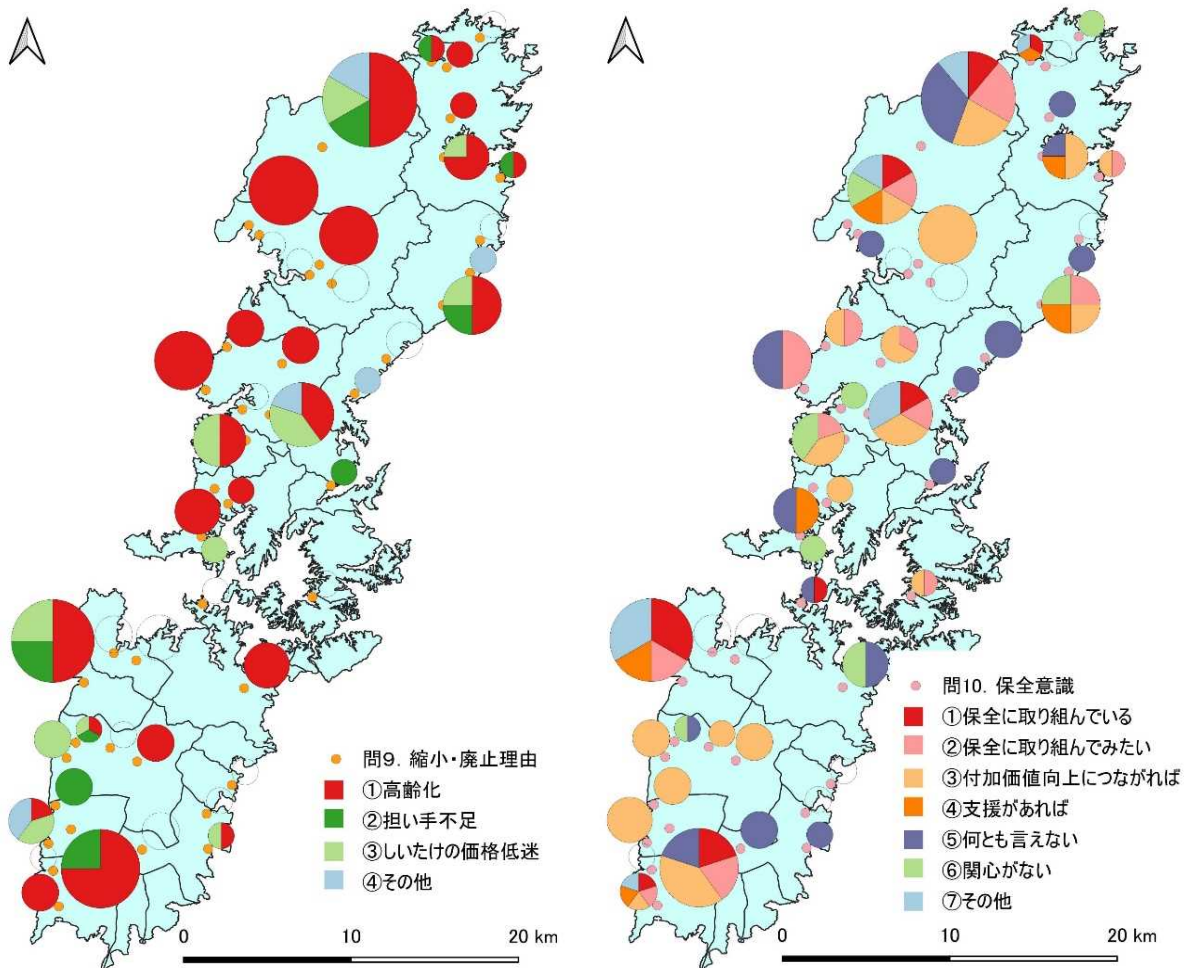


図 23 しいたけ生産の今後の経営意識とツシマウラボシジミへの保全意識
データ:池澤正紀・対馬市(2021)「ツシマウラボシジミの保全に関する生産アンケート」

健全な農林水産業を維持する上では、シカ・イノシシの獣害は避けて通れない問題です。特にシカはこの 10 数年で急激に増加し、森林内を裸地化・乾燥化させ、大量の土壌流出を招いています。下層植生の破壊によって、ツシマウラボシジミやタイワンモンシロチョウ、ハナナズナなど、対馬の希少野生動植物種が絶滅の危機に瀕しています。また、樹皮剥ぎ被害による木材の価値低下や、森林伐採後の再造林や二次林の萌芽更新の妨げとなっており、シカは森林生態系保全の根本的課題です。現在、対馬市では、従来の猟友会員による有害鳥獣駆除に加え、ハンターの直接雇用による効果的・効率的駆除や、地区捕獲隊の結成による自立的駆除に努め、2021

年度には1万頭を超えるシカを駆除しています(図 24)。適正なシカの個体数管理を行うためにはさらに捕獲する必要があるため、対馬ニホンジカ対策戦略会議の「対馬ニホンジカ管理計画」に基づき、有害鳥獣対策の強化を図ります。また、当市では駆除したシカ・イノシシの命を無駄にしないよう「獣害から獣財へ」を合言葉に、食肉や皮革の特産品化に取り組んでいます。駆除したシカ・イノシシで得た財の利益を創造し続けられるよう、循環経済を活性化し、新たな担い手確保につなげます。

地球温暖化によって、米の白濁化やみかんの浮皮、アスパラガスの茎の曲がり、原木しいたけの害菌等、農林産品に高温障害が生じています。持続可能な農林業のためには、品種や生産方法の工夫等気候変動への適応が必要となります。気候変動適応法に基づく「地域気候変動適応計画」を対馬市としても策定することとし、その計画の中で適応策を検討し、農林業者への普及啓発、そして行動支援を行います。

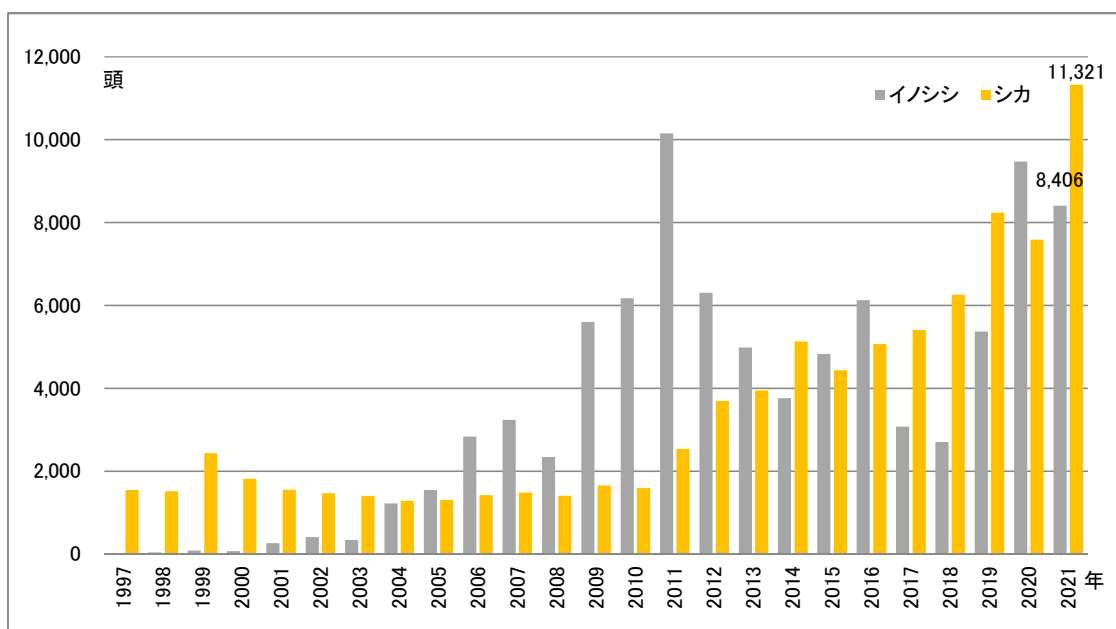


図 24 イノシシ・シカの捕獲頭数の推移

データ:対馬市

<海>

気候変動によって、対馬を含む海域は日本の中で最も海水温が上昇し、イスズミ等の南方系魚種の食害によって「磯焼け」が深刻化し、40年間でひじき等海藻類の99%が消失しています(図 25)。

対馬の基幹産業である水産業を持続可能なものにするため、「海洋保護区」の設定



写真5 ひじき

推進や磯焼け対策によって水産資源量の回復に一層努力します。少ない資源量でも所得を維持・向上させるために、サステイナブル・ツーリズムを推進し、水産物の高付加価値化に努めます。

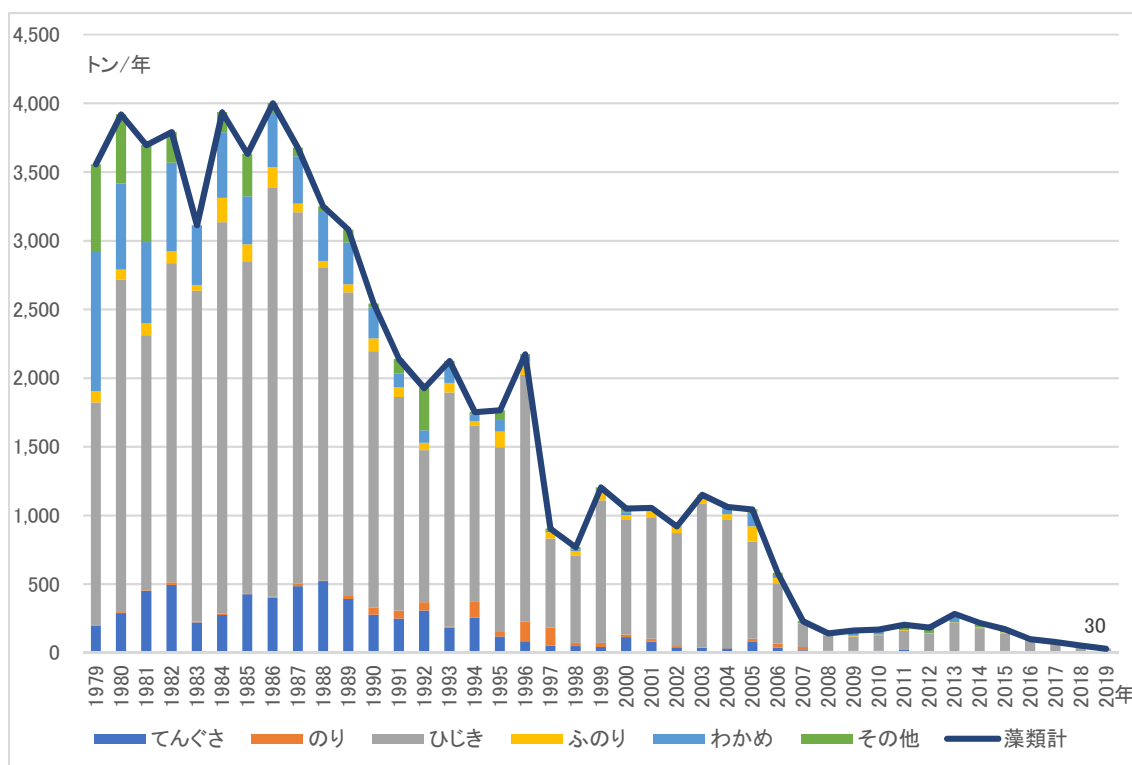


図 25 海藻類の陸揚量の推移

データ: 港勢調査

<森・里・海>

森は里や海とつながっており、特に生活に欠かせない水の循環や沿岸域の水産資源への影響を懸念する声があります。シカの増加によって下層植生が消失し、森林が持つ水の涵養力が失われて降雨時の流域外への流量が増加した結果、平常時の河川の流水量が減り、生活用水や農林業用水の取水に影響を及ぼします。また、気候変動に伴う豪雨の高頻度化により土壌が浸食され、その泥水が海に流れ出ることによって、海の堆積物が増加します。堆積物が海藻の付着や生育を阻害するため、磯根資源(サザエやアワビ等の貝類、ウニ類等)の痩せ(成長不良)を招きます。これらの影響を緩和・回避し、持続可能な農林水産業を実現するためには、森・里・海の流域全体での連携をさらに強める必要があります。加えて、対馬の森・里・海の生物多様性とめぐみ(生態系サービス)を支える農林水産業者の担い手確保のために環境配慮型と農林水産業の複合化による多様な担い手づくりを後押しします。

持続可能な農林水産業によって供給される商品・サービスについて、消費者は今、SDGs 等への関心から、環境や社会への影響、そして人権などに配慮された商品・サ

ービスを積極的に選択する傾向にあります。地元産品の購入(地産地消)、有機栽培や持続可能な資源管理により生産された産品、エコラベル表示の商品、環境保全団体等への寄付金付き商品の購入等様々ですが、「エシカル消費」の興味や消費行動は特に女性を中心に大幅に上昇しています。

こうした行動の変化は日常や観光の消費において対馬にとって追い風となり、対馬の産品・サービスの高付加価値化や未利用・低利用資源の利活用等を後押しします。特に、ビジネスの力で地域課題解決に取り組みたいという若い担い手の志向を支え、雇用や所得創出、そして産業基盤である資源保全に寄与するものになります。「担い手づくり→付加価値化(環境・社会への負荷軽減や環境保全等)→エシカル消費→所得向上→新たな担い手創出→さらなる持続可能な資源管理→対馬ブランドのイメージ向上→さらなるエシカル消費」という具合に環境・社会・経済の調和と好循環がもたらされると考えられます。



図 26 エシカル消費を促すエコラベルの例

(左:持続可能な森林経営の認証制度、中央:持続可能な水産資源管理の認証制度
右:ツシマヤマネコ保全に資する米栽培の認証制度)

環境・社会・経済に配慮し、商品やサービスの質を保証し、消費を促す地域独自の認証制度が各地で設けられています。佐護ツシマヤマネコ米の栽培認証は高付加価値の米の消費による農家所得とツシマヤマネコの生息環境を支えるエシカル消費の先進例です。